

概況総括：『今期は全体的に低迷したが、来期は改善の見込み』

### 【調査概要】

1. 今期(平成 28 年 4-6 月期)の業況調査 DI12 項目では、プラス DI は「原材料単価」1.0(前回 17.2)の 1 項目となった。(前は「原材料単価」、「生産設備」の 2 項目)
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの 9 項目では、
  - (1) 景況感を端的に表す「売上高」▲34.6(前回▲14.4)は、中国・新興国経済減速による影響や国の補助金採択待ちによる受注の停滞により、大きく減少した。  
同様に「収益状況」▲24.6(前回▲10.0)も大幅に悪化した。  
また、前回まで資源安等で下降が進んでいた「原材料単価」1.0(前回 17.2)は底を打った感がある。  
一方、「受注単価販売価額」▲10.0(前回▲12.3)、「資金繰り」▲4.8(前回▲6.7)、「取引条件」▲2.4(前回▲5.6)は若干改善している。
  - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、9 期連続でプラスであった「生産設備」▲2.2(前回 0.8) はマイナスとなり、「操業率」▲8.9(前回▲0.8)もマイナスが進んだ。  
一方、「受注残」▲7.5(前回▲15.0)は改善し、当面の仕事は確保されている。
3. 前回大きく後退した来期 3 項目では、「来期受注」▲1.7(前回▲27.8)は大幅に改善しており、平成 27 年度補正予算のものづくり補助金の採択結果が出てきたこともあり、停滞していた受注が動き出している。また、「来期採算」▲12.1(前回▲25.2)、「来期資金繰り」▲12.1(前回▲16.0)はいずれも改善傾向にある。
4. 「企業経営上の悩み」については、「受注不安定」51.9(前回 47.4)がさらに上昇した。  
「人材不足」24.7(前回 27.8)は若干ポイントを落としたが、依然として高い。
5. 今期は、中国をはじめとした新興国経済の低迷や、平成 27 年度補正予算のものづくり補助金の採択待ちによる受注の低迷の影響等もあって、売上高は大幅に減少した。  
しかしながら、来期については、6 月上旬に上記補助金の採択結果が出たことにより、受注が動き出してきたこともあり、改善する見込みではある。  
ただし、先行きは依然不透明であり、設備投資の動きは今なお慎重な状況にある。  
したがって、今秋策定される国の大型経済対策には、設備投資を後押しする政策を期待したい。

